



忍びの里伊賀・甲賀

地域の文化や伝統を個々の遺産として点で捉えるのではなく、ストーリーとして面として活用・発信することを目的として、日本遺産「忍びの里伊賀・甲賀」の案内板が両市にそれぞれ建てられています。油日神社と櫟野寺は、白洲正子の著書「かくれ里」の舞台となっており、大鳥神社とともに本ストーリーの重要な構成文化財にあげられています。

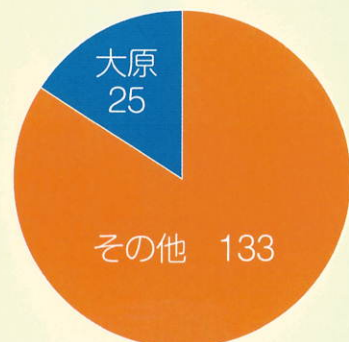
あなたの区の防災士をご存知ですか？

甲賀市防災士連絡会に登録されている防災士の数は158人(H31.3.6現在)、甲賀町23自治区内15区に防災士がいます。大原学区の防災士が圧倒的に多いのは、防災プロジェクトの設立に伴い、人材育成に努力したことも要因の一つです。

防災士の多くは講習と試験に合格した人が多いですが、消防の分団長以上の職歴を持つ人は防災士認証についての特例で防災士となることができます。

防災士連絡会は、町単位で組織での研修や自治振興会、自治区への協力などの活動をしています。防災士は専門的知識や経験も多く、あなたの地域の防災活動に役立つことと思います。

甲賀市防災士会員数



脳トレ体操でサロンが充実

健康福祉部会 サロンスタッフ交流会

6月29日(土)13時30分から、かふか生涯学習館においてサロンスタッフ交流会が開催されました。

グループホームかふかの里、堀井誠さんのHIBIKOREYOKIHI(ひびこれよきひ)と題した講演では、笑顔、声出し、拍手、失敗を恐れない、対話・意思疎通を大切にとのことのお薦めがありました。その後、ワークショップで区の垣根を越えて意見を交換し、これからのサロンでの充実した活動に向けて話し合いをしました。

脳トレ

次の平仮名を意味あることばに並べ替えなさい。

- うなっと ○ききやす
- いすむらお ○にくちんぜ
- さてとぼだら ○そうんれほう



甲賀の玄関口をきれいに



7月7日(日)13時30分から、甲賀駅北口で「21世紀の会」のみなさまと生活環境部会員で色とりどりのマリーゴールド・ベゴニアの苗の植え付けをおこないました。今年も北口ロータリーの花々がみなさまの目を楽しませてくれることでしょう。



震災といのち・人とのつながり

大原小学校 親子人権防災研修会
主催：教育文化部会、大原小学校 PTA

6月25日(火)
13:40 ~ 14:40



淡路島北淡震災記念公園震災の「語りべ」の米山正幸さんより、「野島断層からのメッセージ～震災といのち・人とのつながり」と題して、1995年1月17日発生した阪神・淡路大震災の状況と人々がいかに助け合ったかをお話いただきました。

573人の子どもが親をなくし、多くの人々支援で生きてきたそうです。リアルで感動的な体験話にどの生徒も1時間集中して聴き入っていたことは驚きでした。普段、家庭や学校で守られている子どもも、発災時には自分で自分を守る

必要に迫られます。子どもの時からの防災学習の大切さを再認識する機会でもありました。



櫛野区が第3期モデル地区に

甲賀市セーフコミュニティ災害対策委員会では、
①家具転倒防止対策と②非常用持ち出し袋・家庭内備蓄の普及に取り組んでいます。これまで市内14自治区に推進してきました。この度、櫛野区が、第3期モデル地区として上記2つを非常に重要な自助の対策として、取組を始めました。過去の他地区の取り組みの反省とともに、一歩踏み込んだ対策を期待するところです。



家庭内DIGに取り組む櫛野区民のみなさん 2018.6

こども食堂「スマイル甲賀大原っ子」

今や全国に広がっているこども食堂は、「こどもの孤食を防ぐ」、「貧困の子供たちに食事を」、「地域の子どもは地域で育てる（社会教育）」などの目標を掲げており、地域により課題や目的合は異なります。現在、市内18カ所に（令和元年8月現在）子ども食堂があります。

こども食堂「スマイル大原っ子」では、「どの子どもにも地域で居場所」を、「地域の子どもは地域で育てる」という趣旨で、区自治会を越えて、昨年から大原中区にある市営住宅の集会所を大原自治振興会が借りて、昨年の11月から活動しています。

こども食堂は単に食べる場所ではなく、地域の人々のつながり、気付き、助け合い、仲間づ

くりの場です。一緒に作ること、食べることを通しての学習（食育）があり、地域の応援スタッフに支えられて、一緒に家庭学習をしたり、地域のことについて学んだり、遊んだりして楽しい時間を共に過ごす場です。現在7人の小学生が参加しています。

現在月に1回（月）開催しています。参加ご希望の方は、一度ご相談ください。



命のバトンは更新できていますか？

民生委員・児童委員協議会で取り組んでいる命のバトンを、大原自治振興会では、対象者を拡張した取組として、一昨年から、希望自治区に必要な分を配布させていただきました。

今年の6月には、家の近くで倒れた人に救急隊から本人の情報を聞かれ、命のバトンに記載されていた情報により事なきを得ました。

民生委員・児童委員は12月に対象者を訪問し、本人との対話の中で更新の確認をしています。

区として取り組まれている場合、民生委員・児童委員と同じやり方ではなくても、区で同様の更新の確認が必要です。回覧板に命のバトン更新用紙、チェックランをつけて通年確認している区もあります。配りっ放しになっていないか、一度確認してください。更新確認のため、年度により用紙の色を変えるのが基本です。

緊急情報用紙		記入者	令和	年	月	日
名前	〒	〒	〒	〒	〒	〒
住所	〒	〒	〒	〒	〒	〒
電話番号	〒	〒	〒	〒	〒	〒
かかりつけの医療機関	〒	〒	〒	〒	〒	〒
いつも飲んでいとお薬	〒	〒	〒	〒	〒	〒
病状や体の様子、備わった道具等があれば記入してください						
もしもの時の連絡先						
ご家族、親族の連絡先	〒	〒	〒	〒	〒	〒
ご住所で連絡が取れる方	〒	〒	〒	〒	〒	〒



上下流連携森づくりの集い 7月28日(日)
大原自治振興会地域振興部会・甲賀愛林クラブ共催

琵琶湖の上流(甲賀市)と下流(豊中市)で連携と親睦を深めようということで、毎年、豊中市と甲賀市の親子さんを迎えて開催されている、上下流連携の森づくりの集い「親子森づくり体験」が、7月28日(日)に開催されました。

前日の台風通過で開催が危ぶまれましたが、豊中から27名(子供は15人)、自治振興会へのお申し込み者51名(子供は25人)。スタッフとして滋賀県、甲賀市の職員の他39人のメンバーで猛暑の中、交流を楽しみながら森づくりの体験を終えることができました。当日は、大学共同利用機関法人・総合地球環境学研究所(京都市)の栄養循環プロジェクトからも、3名の方

がスタッフとしてお手伝いいただくとともに、facebookにも、当日の様子を投稿していただいております。

栄養循環プロジェクトでは、小佐治や大原を含めた野洲川流域で、自然の中の栄養素の流れを調査し、その地域の人びとの生活と自然の豊かさの関係を研究されています。そして地域の人たちといっしょに豊かな生態系を保つことと、人のしあわせが両立する方法を研究されています。



今年度、大原学区の地域マネージャーを担当させていただく市川です。

今年度より振興会事務所と密着した支援活動をとるという観点で、振興会事務所に在席する時間を増やしております。お気軽に、振興会事務所にお立ち寄りいただければと思います。

また、甲賀市では行政情報番組「きらめきこうか」で、8月より順次、各地区の地域マネージャーの紹介を放送しております。甲賀地区は11月ごろに、放送される予定です。お楽しみにお待ちしております。

編集後記

猛暑の夏が過ぎ、大空には秋の雲が見られるこの頃です。毎号、部員一同意見を交わしながら、より良い紙面作りに努力しております。これからもご支援、ご協力をお願いいたします。